

6 調査結果の特徴

平成 24 年 3 月に策定されたスポーツ基本計画は、スポーツ基本法の理念を具体化し、今後の我が国のスポーツ政策の具体的な方向性を示すものとして、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となって施策を推進していくための重要な指針として位置づけられるものであり、計画の期間については、10 年程度を見通した計画である。

本年度の調査分析は、スポーツ基本計画の政策目標と関連づけることを念頭に行うこととした。

(1) 青少年（6～19歳）

スポーツ基本計画

政策目標(抜粋):

今後 10 年以内に子どもの体力が昭和 60 年頃の水準を上回ることができるよう、今後 5 年間、体力の向上傾向が維持され、確実なものとなることを目標とする。

《調査分析の観点》

新体力テスト施行後の小学生（11 歳）、中学生（13 歳）、高校生（16 歳）の走・跳・投の基礎的運動能力は、平成 21 及び 22 年度調査において「すべての項目で横ばい及び向上傾向がみられる」ことが示された。本年度は平成 10～23 年度までの 14 年間のデータの推移を基に、体力・運動能力が確実に向上傾向にあるのかについて検討を行った。

さらに、平成 23 年度の体力・運動能力の状況を昭和 60 年度水準と比較し、その状況を具体的に把握するため、昭和 60 年度の平均値を用いてその達成状況と運動・スポーツの実施状況との関連性について検討した。

① 青少年の体力・運動能力の年次推移（表 1・2）

ア. 新体力テスト施行後（平成 10～23 年度）の体力・運動能力の推移

基礎的運動能力である、走、跳、投にかかる 50m 走、持久走、立ち幅とび、ソフトボール投げ・ハンドボール投げでは、小学生男子の立ち幅とびを除くすべての項目で、横ばいまたは向上傾向がみられる。さらに昨年度の横ばい傾向から本年度向上傾向に変わったところを 2 ヶ所で確認することができる。

また、新体力テストの合計点では、すべての年代において平成 10～23 年度（14 年間）の過去最高の記録を直近の 2 年間に確認することができる。

表1 新体カテスト施行後（平成10～23年度）の体力・運動能力の推移

小学生(11歳)	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン		50m走	立ち幅とび	ボール投げ	合計点
男子	低下	向上	横ばい	向上	向上		向上	低下	横ばい	向上
女子	横ばい	向上	向上	向上	向上		向上	横ばい	向上	向上
中学生(13歳)	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	持久走	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	合計点
男子	低下	向上	向上	向上	向上	横ばい	向上	横ばい	横ばい	向上
女子	横ばい	向上	向上	向上	向上	向上	向上	向上	向上	向上
高校生(16歳)	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	持久走	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	合計点
男子	低下	向上	向上	向上	向上	横ばい	向上	横ばい	横ばい	向上
女子	横ばい	向上	向上	向上	向上	横ばい	向上	向上	横ばい	向上

※ は昨年度と比較して、横ばいから向上に変わったところを示す。

表2 新体カテスト合計点の平成10～23年度における順位

男子		H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
11歳	合計点	59.19	59.78	60.44	59.89	60.64	60.90	61.03	60.61	60.88	60.90	61.29	61.27	62.30	61.01
	順位	14	13	11	12	9	6	4	10	8	6	2	3	1	5
13歳	合計点	38.87	39.99	40.77	41.73	41.98	42.89	42.91	43.20	43.59	42.94	43.00	42.89	44.11	44.57
	順位	14	13	12	11	10	8	7	4	3	6	5	8	2	1
16歳	合計点	48.00	49.80	51.83	52.23	53.07	53.43	53.55	53.43	53.82	54.01	54.04	54.21	54.89	54.41
	順位	14	13	12	11	10	8	7	8	6	5	4	3	1	2
女子		H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
11歳	合計点	58.56	58.58	58.59	59.47	59.65	59.86	60.14	61.13	60.48	61.07	61.37	61.16	61.55	61.59
	順位	14	13	12	11	10	9	8	5	7	6	3	4	2	1
13歳	合計点	45.26	45.19	45.44	46.39	47.17	49.06	49.43	48.83	49.23	49.44	49.62	49.58	50.40	51.39
	順位	13	14	12	11	10	8	6	9	7	5	3	4	2	1
16歳	合計点	46.29	46.60	46.49	46.76	47.53	48.44	48.15	48.60	49.57	50.42	50.46	50.89	51.82	50.69
	順位	14	12	13	11	10	8	9	7	6	5	4	2	1	3

※ 記録（点）の数値は小数点以下第3位を四捨五入して表記してある。

② 青少年の体力・運動能力の現状（図-5）

ア. 基礎的運動能力の分布状況と昭和60年度の平均値との比較

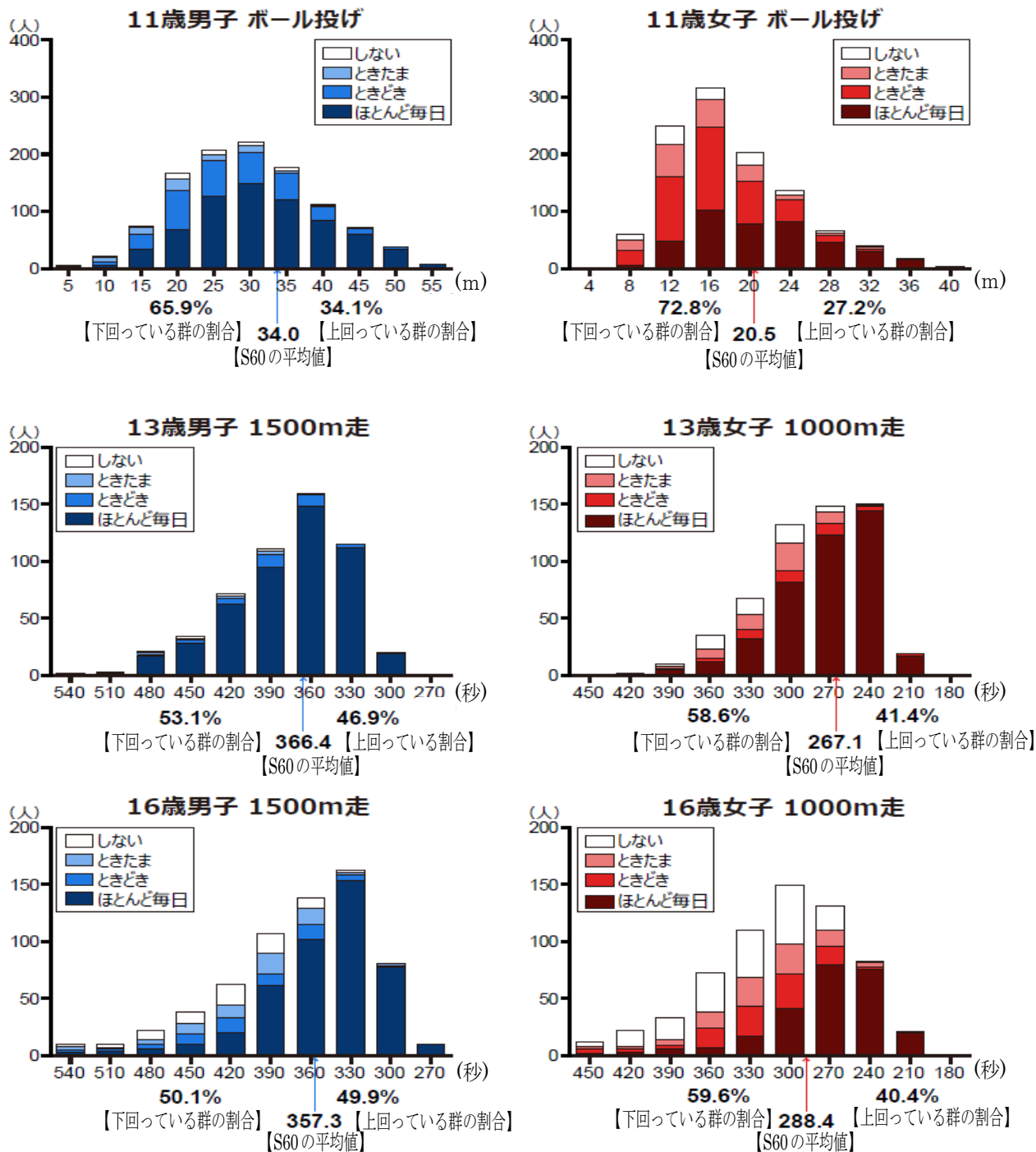
昭和60年度との比較が可能なテスト項目について、平均値（昭和60年度）を「上回っている」群と「下回っている」群に分類して、テスト成績（記録）の分布状況を比較すると、年代や項目によって程度は異なるものの、ほとんどの年代や項目で平均値（昭和60年度）を大きく下回った子ども達が多い。

このことから、依然、体力水準は低い状況であることが伺える。

イ. 基礎的運動能力の結果の度数分布状況と運動・スポーツの実施頻度との関連

前述での2群を運動・スポーツの実施頻度で比較すると、「上回っている」群は、「ほとんど毎日」または「ときどき」の割合が多い。一方、「下回っている」群では、数値の低下に伴い「しない」または「ときたま」の割合が多くなる傾向が示されており、特にその傾向は女子に強くみられる。

これらのことから、運動習慣が身に付いていない子どもに対する支援の充実等が必要であり、特に女子への取組が重要な課題であると考えられる。



図－5 度数分布別の運動・スポーツの実施頻度